

光市立三井（みい）小学校で4年生が「森の学校」を実施！

令和6年11月28日（木）、光市立三井小学校の体育館で、4年生児童37名を対象に、森の話及び、竹の花器づくり等の「森の学校」を実施しました。

この取組は、次代の担い手となる子供たちに、ふるさとの森林の大切さやそれを支える林業の重要性等の理解を深めてもらうため、「やまぐち森林・林業未来維新カレッジ」研修の一環として、光市林業研究会（会長：森戸芳史、会員21名）が実施したものです。

始めに、林研会員による森のお話です。地球温暖化防止対策としての森林の重要性、身近な木材の使われ方、竹の生態、竹製品の話をしました。

次に、竹の花器づくりです。まず、林研会員から安全なノコギリやナタの使い方のコツを教わり、ノコギリ、ナタを使って竹の器を作り、竹の枝で取っ手を作って器にはめ込んで竹の花器の完成です。

時間があまりなく、事前のノコギリの練習は出来ませんでしたが、それでも、2つ目の花器を作る、ノコギリがすぐに上手になった児童もいました。



森林、竹林の話



竹の花器完成